

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-183442

(43)公開日 平成9年(1997)7月15日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

B 6 5 D 33/08  
33/10

識別記号

片内整理番号

F I

B 6 5 D 33/08  
33/10

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 10 頁)

(21)出願番号 特願平7-343140

(22)出願日 平成7年(1995)12月28日

(71)出願人 000122896

岡田紙業株式会社

大阪府中央区北久宝寺町4丁目4番16号

(72)発明者 岡田 博文

大阪府大阪市中央区北久宝寺町4丁目4番  
16号 岡田紙業株式会社内

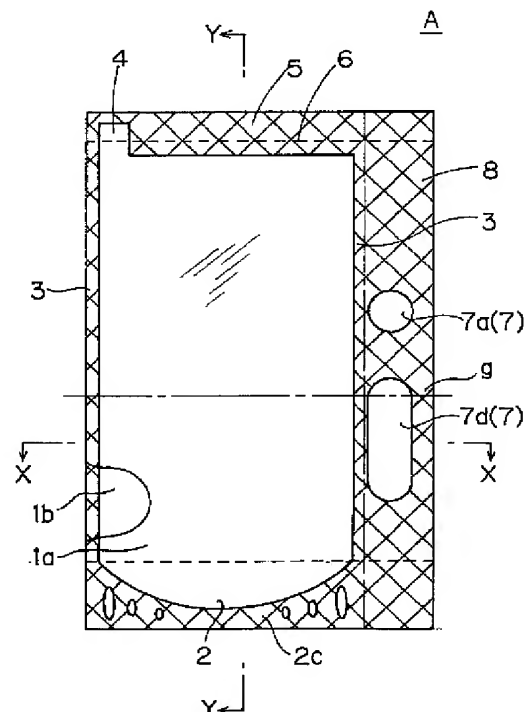
(74)代理人 弁理士 薦田 璋子 (外1名)

(54)【発明の名称】 流動物用包装袋

(57)【要約】

【課題】 かなり腰の弱い素材よりなるフレキシブルな袋であっても、片手で持って注出操作でき、特に各種流動物の詰め替え品の包装に好適に使用できる流動物用包装袋を提供する。

【解決手段】 表裏体1a、1bが少なくとも1側縁で接合され、上縁部に開封可能に形成された注出用口部4を有する包装袋Aにおいて、前記1側縁の接合部3に把持用孔7を有する取手部8を連設する。把持用孔7を、流動物収容状態で取手部を上にして横向きにしたときの重心を通る垂直線上の取手部内の位置gを基準として、該基準位置g付近に設ける。把持用孔7として、基準位置gより袋上部側に人差し指用の孔7aを、該基準位置を含む袋下部側に中指、薬指および小指の3指用の孔7dを設ける。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなり、表裏体の少なくとも1側縁が接合されて形成され、上縁部に開封可能に形成された注出用口部を有し、収容物である流動物を前記注出用口部より注出するようにした包装袋であって、前記1側縁の接合部に、1もしくは複数の把持用孔を有する注出操作用の取手部が設けられてなることを特徴とする流動物用包装袋。

【請求項2】取手部の把持用孔が、流動物収容状態で取手部を上にして横向きにしたときの重心を通る垂直線上の取手部内の位置を基準として、該基準位置付近に設けられてなる請求項1に記載の流動物用包装袋。

【請求項3】取手部の把持用孔として、流動物収容状態で取手部を上にして横向きにしたときの重心を通る垂直線上の取手部内の位置を基準として、該基準位置より袋上部側に人差し指用の孔を、該基準位置を含む袋下部側に中指、薬指および小指の3指用の孔を設けてなることを特徴とする請求項1または2に記載の流動物用包装袋。

【請求項4】表裏体の両側縁を接合するとともに、底部をガセット状に折込んでその両側端部を前記接合部に一体に接合した自立性袋であって、その少なくとも1側縁の接合部に取手部が連設されてなる請求項1～3のいずれか1項に記載の流動物用包装袋。

【請求項5】注出用口部として、前記取手部とは反対側の側縁内側に、開封状態において先端部が突出状態となる二つ折状またはチューブ状の口部材を表裏体に接合して介設してなることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載の流動物用包装袋。

【請求項6】合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなり、上縁部に開封可能に形成された注出用口部を有する袋本体の表裏体の少なくとも一方に、側縁より外側方にまで延びる翼状取手片を貼着してなることを特徴とする流動物用包装袋。

【請求項7】合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなり、上縁部に開封可能に形成された注出用口部を有する袋本体と、厚紙等の適度に腰のあるシート材により形成され、前記袋本体を巻回できる輪奈状テープ体とを組合せてなることを特徴とする流動物用包装袋。

【請求項8】合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなり、上縁部に開封可能に形成された注出用口部を有する袋本体と、厚紙等の適度に腰のあるシート材により形成され、前記袋本体を挿入して把持できる筒状体とを組合せてなることを特徴とする流動物用包装袋。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、主に詰め替え用の

洗剤や油、液状ダシやたれ、牛乳や各種飲料等の液体食品その他の流動物の包装袋に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術と発明が解決しようとする課題】近年、例えば詰め替え用の洗剤や油等の液体その他の流動物の包装材として、廃棄物の減量化等のために、従来の成形容器に代えて、合成樹脂フィルム等の可撓性のある複合素材よりなる袋（いわゆるフレキシブルパウチ）が使用されることが多くなっている。

【0003】このような包装袋に収容された詰め替え用の流動物は、瓶や成形容器等の口径の小さい別の容器に移し替えて使用される。この流動物の移し替えの際、包装袋がフレキシブルなものであるため、包装袋の上縁部に有する注出用口部を開封した状態で、該袋を両手で持って注出操作する必要がある等、その操作が行ない難いものとなっている。

【0004】例えば、袋を両手でもって操作すると、移し替えられる側の容器を安定よく保持することができず、注出中に容器が倒れるおそれがある。また、フレキシブルな袋は保形性に乏しく、該袋を握持すると袋形状が変化し、注出操作中の形が崩れて正しく注出できない場合がある。さらに、袋を握持力の変化によって流出量が不安定になる。特に、袋を両手で持っても内容物が少なくなると、一層袋の形を保ち難くなり、注出操作が行ない難くなる。

【0005】なお、かなりの腰のあるシート材よりなる袋であれば、ある程度は形を保つことができ、注出操作を比較的容易に行なえるのであるが、フィルム等の袋素材の厚みを大きくする等して腰を持たるのは、それだけコスト高になり、詰め替え用製品の使い捨ての包装袋としては適さない。

【0006】本発明は、上記に鑑みてなしたものであり、かなり腰の弱い素材よりなるフレキシブルな袋であっても、片手で持って注出操作でき、特に各種流動物の詰め替え品の包装に好適に使用できる流動物用包装袋を提供するものである。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記の課題を解決する流動物用包装袋に係るものであり、請求項1の発明は、合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなり、表裏体の少なくとも1側縁が接合されて形成され、上縁部に開封可能に形成された注出用口部を有し、収容物である流動物を前記注出用口部より注出するようにした包装袋であって、前記1側縁の接合部に、1もしくは複数の把持用孔を有する注出操作用の取手部が設けられてなることを特徴とする。

【0008】前記において、取手部の把持用孔は、請求項1のように流動物収容状態で取手部を上にして横向きにしたときの重心を通る垂直線上の取手部内の位置を基

準として、該基準位置付近に設けられてなるものが好適である。

【0009】また前記取手部の把持用孔として、流動物収容状態で取手部を上にして横向きにしたときの重心を通る垂直線上の取手部内の位置を基準として、該基準位置より袋上部側に人差し指用の孔を、該基準位置を含む袋下部側に中指、薬指および小指の3指用の孔を設けておくのが好ましい。

【0010】さらに前記の包装袋としては、表裏体の両側縁を接合するとともに、底部をガセット状に織込んでその両側端部を前記接合部に一体に接合した自立性袋であって、その少なくとも1側縁の接合部に前記同様の取手部を連設しておくことができる。

【0011】前記発明の注出用口部としては、前記取手部とは反対側の側縁内側に、開封状態において先端部が突出状態となる二つ折状またはチューブ状の口部材を表裏体に接合して介設してなるものが好適である。

【0012】請求項6の発明の流動物用包装袋は、合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなり、上縁部に開封可能に形成された注出用口部を有する袋本体の表裏体の少なくとも一方に、側縁より外側方にまで延びる翼状取手片を貼着したものである。

【0013】請求項7の発明の流動物用包装袋は、合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなり、上縁部に開封可能に形成された注出用口部を有する包装袋と、厚紙等の適度に腰のあるシート材により形成され、前記包装袋を巻回できる輪奈状テープ体とを組合せてなることを特徴とする。

【0014】さらに請求項8の発明の流動物用包装袋は、前記同様の包装袋と、厚紙等の適度に腰のあるシート材により形成され、前記包装袋を挿入して把持できる筒状体とを組合せてなることを特徴とする。

【0015】

【作用】上記した本発明の流動物用包装袋によれば、内容物である封入されている流動物、例えば詰め替え用洗剤や油等の液体その他の流動物を移し替えるべく注出する際、上縁部の注出用口部を開封するとともに、片手で1側縁の接合部に設けられている取手部を、該取手部の把持用孔に指を差し込むようにして把持し、包装袋を徐々に傾けて前記注出用口部より注出する。

【0016】この際、1側縁の接合部に連設されている取手部を把持することで、収容部分を握持することなく持つことができ、接合部による補強効果もあって、フレキシブルな袋の変形を抑制しながら包装袋を傾けることができ、片手でも問題なく注出操作できる。

【0017】請求項2のように、取手部の把持用孔を、流動物収容状態で取手部を上にして横向きにしたときの重心を通る垂直線上の取手部内の位置を基準として、該基準位置付近に設けてある場合、該把持用孔の部分を把

持することにより、袋を注出開始時の傾き状態から、注出に伴って徐々に横向きおよび注出用口部側を下にした傾き状態に容易に変化させることができ、しかも袋形状も良好に保持でき、注出操作を容易に行なえる。

【0018】特に請求項3のように、前記の把持用孔として、袋の横向き状態での重心を通る垂直線上の位置を基準として、これより袋上部側に人差し指用の孔を、該基準位置を含む袋下部側に中指、薬指および小指の3指用の孔を設けた場合には、袋形状を良好に保ちながら、注出開始時の傾き状態から横向きおよび注出用口部側を下にした傾き状態に容易に徐々に変化させることができ、その注出操作を一層容易に行なうことができる。

【0019】例えば、主に袋上部側の人差し指用の孔の個所で重量を支えるようにすると、袋はやや傾いた状態になり、また袋下部側の3指用の孔の個所で重量を支えるようにすると、注出用口部を有する上縁部の側が下向きに傾くことになるので、両孔の個所での支えの状態を適宜に調整することより、前記の注出操作を失敗なく容易に行なうことができる。

【0020】また請求項4のような自立性袋であれば、内容量の大きくて、しかも注出用口部を開封した状態においても自立させておくことができ、片手で取手部を把持し、他方の手で容器を持って、内容物である流動物を容易に移し替えできる。

【0021】請求項5の発明のように、注出用口部として、取手部とは反対側の側縁部内側に口部材が設けられていると、注出状態が安定するばかりか、口径の小さい容器の口部で前記口部材の先端部を当てがうようにして注出でき、注出操作がさらに容易になる。すなわち仮に両側縁が接合された袋で、取手部とは反対側にも所要幅の接合部を有する袋であっても、前記口部材を容器の口部に当てがうようにして容易に注出できる。

【0022】また請求項6の発明の流動物用包装袋によれば、上縁部の注出用口部を開封するとともに、表裏体の片方または双方に貼着された翼状取手片を把持することにより、袋本体の形を保ちながら袋全体を傾けて内容物である流動物を注出操作することができる。

【0023】請求項7の発明の流動物用包装袋の場合、流動物が封入されている包装袋の外側に、適度に腰のあるシート材により形成された輪奈状テープ体を巻回して、該テープ体のはみ出し部分を把持することにより、包装袋を大きく変形させるおそれなく保持でき、このまま全体を傾けることで、内容物である流動物を問題なく注出することができる。

【0024】請求項8の包装袋によれば、流動物が収容されている袋を腰のあるシート材よりなる筒状体に挿入して、その外側より把持するようになれば、包装袋を大きく変形させることなく保持でき、このまま全体を傾けることにより、注出用口部より内容物である流動物を問題なく注出できる。

10

20

30

40

50

## 【0025】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態を図面に基いて説明する。

【0026】図1～図6は、少なくとも1側縁の接合部に取手部を設けた本発明に係る流動物用包装袋の実施形態を示し、図1はその第1の実施形態の包装袋(A)の正面図、図2は前図X-X線の断面図、図3はY-Y線の断面図である。図4および図5は変更例を示している。

【0027】この実施形態の包装袋(A)は、熱融着性の合成樹脂フィルムまたは少なくとも1層の合成樹脂フィルムを含む複合体等の可撓性素材よりなるもので、表裏体(1a)(1b)が図のように熱融着手段等により接合されるとともに、表裏体(1a)(1b)に連続する底部(2)が内側に二つ折状態に折込まれ、その両折込み部(2a)(2b)の側端部が前記両側縁の接合部(3)(3)と熱融着手段等により一体に接合されており、これにより流動物を収容した状態で自立可能に形成されている。底部(2)の両折込み部(2a)(2b)は、内容物を収容した状態では図3の鎖線から実線のように変化し、多量に収容できることになる。

【0028】図の場合、底部(2)の両折込み部(2a)(2b)の下縁部を、それぞれ表裏体(1a)(1b)の下縁部と熱融着手段により一体に接合している。(2c)(2c)はその接合部を示す。底部(2)は、表裏体(1a)(1b)と一体形成されている素材を前記のように折込むほか、別体の底部(2)を前記のように折込んで側端部および下縁部を融着手段等により接合一体化することもできる。

【0029】前記の包装袋(A)の上縁部は、詰め替え液体製品等の流動物を収容した状態において、熱融着手段等により接合されて密封されている。この上縁部は、一方の側縁に沿って袋内部から連続する非接合部分を残存させるように接合され、該非接合部分が切断開封可能な注出用口部(4)として形成されている。(5)は上縁部の接合部を示す。

【0030】前記の注出用口部(4)の開封手段としては、鉋等により切断して開封するものでもよいが、図1～図3の実施形態の場合、可撓性素材である複合体の少なくとも1層を残存させるようにミシン目状の切離用切込み(6)を形成しておいて、該切込み(6)に沿って引裂き開封できるように形成している。この切離用切込み(6)としては、図4のように、一つの切目からの破断方向のずれを次の切目で補正できるようにした変形ミシン目状に形成しておくこともできる。また図5のように、上縁部の一方の隅角部分を局部的に切離することにより、注出用口部(4)として開封可能に形成することも可能である。

【0031】このほか、また開封位置の側縁に引裂き助成のノッチを形成しておいて、前記の注出用口部(4)

を引裂き開封できるようにしたものでもよい。

【0032】そして、前記の包装袋(A)の注出用口部(4)の側とは反対側になる1側縁の接合部(3)に、1もしくは複数の把持用孔(7)を有する注出操作用の取手部(8)が設けられている。

【0033】取手部(8)として、図の実施形態では、1側縁の表裏体(1a)(1b)の接合部(3)を、取手部に相当する幅を含めて広幅で接合し、この接合部(3)の外側部分を、把持用孔(7)を有する取手部(8)として連設構成している。この取手部(8)には必要に応じて補強層を積層しておくことができる。

【0034】前記の取手部(8)としては、表裏体(1a)(1b)を非接合状態にしておくことも可能である。また別のシート材による取手部を前記接合部(3)に熱融着手段や接着手段により取着して連設することもできる。この場合、シート材として腰のある素材を使用すれば、注出操作の際の袋の保形性がさらに向上する。このほか、図6のように、1側縁の接合部(3)の中央部等の一部または全部を内方側に拡大して広幅に形成し、この広幅部分を、把持用孔(7)を有する取手部(8)として接合部(3)と一体に構成することもできる。

【0035】前記の取手部(8)の把持用孔(7)については、図1に示すように人差し指用の孔(7a)と、中指、薬指および小指の3指用の孔(7d)とを設けることができる。

【0036】このほか、図4のように、人差し指、中指および薬指さらに必要により小指を挿入できる各指用の孔(7a)(7b)(7c)を複数設けておくことも、また図5のように親指を除く4指用、あるいは親指と人差し指を除く3指用の1つの孔(7e)を設けておくこともできる。後者の場合、図1の人差し指用の孔の部分に摘み箇所としての印刷表示(9)を施しておいて、該部分を親指と人差し指と摘むようにしてもよい。

【0037】さらに図5のように前記の4指もしくは3指用の孔(7e)に連続してミシン目状の切込み(10)を形成しておいて、該孔(7e)を必要に応じて拡張可能に形成しておくこともできる。また各実施例の指差し孔について、ミシン目状の切込みにより開口可能に形成しておくこともできる。

【0038】前記のいずれの実施形態の把持用孔(7)の場合においても、注出操作の際に包装袋(A)を安定に保持できる位置に設けるのが望ましい。そのため、流動物収容状態で取手部(8)を上にして包装袋(A)を横向きにしたときの重心(G)を通る垂直線上の取手部(8)内の位置(g)を基準として、前記した把持用孔の形成位置を設定する。

【0039】すなわち、収容されている流動物の注出操作時の袋の傾き状態を考えると、図7(a)に示す注出直前の傾き状態から、注出に伴って徐々に横向きになり、最終段階では同図(b)のように注出用口部(4)

を有する上縁部が下向きに傾斜した状態に変化する。このような袋の傾きを、安定よく容易にコントロールできるようにすればよい。

【0040】例えば、図7(c)のように、流動物が収容されている包装袋(A)を横向きにした状態における重心(G)を通る垂直線上の取手部(8)内の位置(g)を基準として、該基準位置(g)を中心にして持ち、重量を支える位置を前記基準位置(g)より袋上部側あるいは袋下部側にずらせることにより、図7(a)あるいは(b)の状態に容易にコントロールできることになる。

【0041】かかる点から、前記の把持用孔(7)は、袋の重量を支える位置を前記基準位置(g)の袋上部側から袋下部側に変化させることができるように形成しておくのが望ましい。

【0042】すなわち、図1の実施形態のように、人差し指用と3指用の2つの孔(7a)(7d)を設けておく場合、人差し指用の孔(7a)を前記基準位置(g)より袋上部側に形成し、また3指用の孔(7d)を前記基準位置(g)を含む袋下部側に、例えば図のように一部が前記基準位置(g)にかかるように形成する。

【0043】この場合、主に袋上部側の人差し指用の孔(7a)の個所で重量を支えるようにすると、袋(A)は図7(a)のようにやや傾いた状態になり、また袋下部側の3指用の孔(7d)の個所で重量を支えるようにすると、注出用口部(4)を有する上縁部の側が下向きに傾くことになるので、両孔(7a)(7d)の個所での支えの状態を適当に調整することより、注出開始時の傾き状態から横向きおよび注出用口部側を下にした傾き状態に徐々に変化させることができ、注出操作を容易に行なうことができる。

【0044】また図4のように3つの各指用の孔(7a)(7b)(7c)を設ける場合、人差し指用の孔(7a)を前記基準位置(g)より袋上部側に、薬指用の孔(7c)を袋下部側に設け、中指用の孔(7b)を前記基準位置(g)近辺に設けておく。

【0045】この場合にも、重量を支える個所を前記袋上部側の孔(7a)から下部側の孔(7c)の側に徐々に変化させることにより、傾き状態を変化させることができ、注出操作を容易に行なえる。

【0046】さらに図5のように、人差し指用の孔の代わりに該部分を摘むようにした場合も、前記同様に重量を支える個所を前記摘み部分から下部側の孔(7e)の側に徐々に変化させるようにして傾き状態を変化させることができ、注出操作を容易に行なえる。

【0047】親指を除く4指を挿入できる1つの把持用孔(7)を設けて実施する場合、該把持用孔(7)の中で重量を支える個所を前記基準位置(g)より袋上部側から袋下部側に変化させることができるように、前記基準位置(g)付近に設けておけばよい。

【0048】上記した実施形態の包装袋(A)によれば、例えば詰め替え用洗剤や油等の液体その他の流動物を移し替えるべく注出する際、上縁部の注出用口部(4)を開封するとともに、片手で1側縁の接合部(3)に連設されている取手部(8)を、前記の把持用孔(7)に指を差し込むようにして把持し、包装袋(A)を図7(a)の状態から徐々に傾けて前記注出用口部(4)より注出する。

【0049】この際、1側縁の接合部(3)に連設されている取手部(8)を把持することで、収容部分を握持することなく持つことができ、接合部(3)による補強効果もあって、フレキシブルな袋の変形を抑制しながら包装袋(A)を容易に傾けることができ、片手でも問題なく注出操作でき、他方の手で移し替えられる側の容器を持って移し替え操作できる。このとき、収容部分を握らないので、袋内圧が安定し、傾きに応じた注出量が得られ、不意に多量に飛び出したりすることがない。

【0050】注出用口部としては、袋の上縁部の全体を大きく開封して注出できるように構成することもできるが、注出量を安定させること、あるいは小さい口径の容器の口部に注出口部を当てがい易くする上では、上記した実施例のように、上縁部における取手部(8)とは反対側の側縁内側位置に所要幅の注出用口部(4)を設けておくのが望ましい。

【0051】また、取手部(8)とは反対側の側縁が二つ折した袋素材の折曲縁である場合は、前記の開封状態において前記側縁を移し替えられる側の容器の口部に当てがい易いが、図のように注出用口部となる側の側縁が接合部(3)を有する場合には、接合部(3)の存在のために側縁を容器の口部に当てがい難く、また注出状態が断面縦長になり易い。

【0052】そこで図8に示すように、別のフィルム素材よりなる二つ折状もしくはチューブ状の口部材(14)を、前記取手部(8)とは反対側の注出用口部(4)の側縁内側に、変形ミシン目状等の切離用切込み(6)からの開封状態において先端部(14a)が突出状態となるように、表裏体(1a)(1b)に接合しておくのが望ましい。

【0053】この場合、前記の口部材(14)は、外側が熱接着性のある樹脂フィルム層、内側は熱接着性を有さない樹脂フィルム層よりなる積層体を用いて、内側を接合(15)するとともに、該口部材(14)以外の個所をシール(16)して、口部材(14)の個所からのみ注出できるようにする。切離用切込み(6)は、前記シール部(16)より外側に設けておけばよい。

【0054】これにより、開封状態において突出状態となる口部材(14)の先端(14a)を口径の小さい容器の口部に当てがって注出できるとともに、注出量も安定したものになり、収容されている流動物の移し替え操作を容

易に行なうことができる。

【0055】図9のように、上縁部の全体を開封する形態の袋においても、取手部(8)と反対側の側縁内側の表裏体(1a)(1b)間に、前記同様の口部材(14)を、変形ミシン目状等の切離用切込(6)からの開封状態において先端部(14a)が突出状態となるように設けておくのがよい。この場合も、切込みによる開封箇所より内側の口部材(14)以外の部分(2点鎖線)をシールして、口部材(14)の部分からのみ注出できるようにしておくのが好ましい。

【0056】図10は、切離用切込み(6)で開封した状態において先端部(14)が突出状態となる口部材(14)をチューブ状とし、該口部材(14)以外の個所の開封箇所をシール(16)した場合を示している。このチューブ状の口部材(14)を外側ほど径大に形成し、該口部材(14)を栓部材(17)の脱着により開閉自在に構成しておく、内容物を必要量だけ注出し、残りをそのまま袋に収納したままにしておくことが可能になる。

【0057】上記のほか、注出用口部としては、開封により内容物の流動物を注出できるものであれば、どのような形態をなすものであってもよく、またその開封手段についても種々の実施が可能である。

【0058】なお、図示する実施形態の袋は、底部(2)を折込んで自立性を持たせたいわゆるスタンディングパウチの場合を示しているが、表裏体(1a)(1b)を底部で連続したものとしたり、熱融着手段等により接合して連続させた袋、いわゆる平パウチと称される自立しない包装袋においても、上記同様に実施できる。

【0059】平パウチと称する袋の場合、四周縁で表裏体を接合した四方シール形の袋のほか、袋素材を二つ折して上記の取手部(8)を形成する1側縁と上下両縁部で接合シールした3方シール形の袋、あるいはチューブ状袋素材の上下両縁部をシールした袋であってもよい。これらの袋は、縦方向寸法が、横幅の1.5倍～2.5倍程度の縦長の袋であるのが、側縁部の取手を把持した場合の保形性がよく好ましい。

【0060】いずれにしても、袋の構成素材すなわち表裏体(1a)(1b)に使用する可撓性素材、および熱融着手段等による接合構造は、内容物の種類や流通に耐える密閉性および強度や取手部の保形力等を考慮して適宜決定できる。

【0061】例えば、可撓性素材として、複数層の合成樹脂フィルムのみを複合体のほか、1もしくは複数層の合成樹脂フィルムと、紙層および／またはアルミ箔とを積層した複合体を使用することもできる。前記の複合体であると、取手部(4)に傾けたときの保形上必要な剛性を持たせ易い。

【0062】図11は、両側縁の接合部(3)(3)に、上記した構造の把持用孔(7)を有する取手部(8)を設けた場合を示しており、この場合、一方の取

手部(8)を把持して注出操作することも、また両方の取手部(8)を併せ持って注出操作することもできる。この場合も、注出用口部および開封手段については任意に構成できるが、図のように幅方向の中央位置に注出用口部(4)を設けておくのが好ましい。

【0063】図12および図13は、第2の発明の実施形態を示している。この発明の包装袋(A)は、収容されている液体洗剤等の流動物の注出操作を容易に行なえるようにするために、上記の取手部(8)に代えて、別体の翼状取手片を袋本体に貼着している。

【0064】すなわち、図12の実施形態の場合は、上記同様の可撓性素材よりなり、上縁部に開封可能な注出用口部(4)が設けられた袋本体(A1)の表裏体(1a)(1b)の略中央部に、一側縁より側方に延びる比較的広幅の翼状取手片(11)(11)を貼着している。この場合、両翼状取手片(11)(11)を把持するとことにより、袋本体(A1)の形を保ちつつ袋全体を傾けて内容物である流動物を注出操作できる。

【0065】また図13の実施形態では、表裏体(1a)(1b)の一方、例えば表体(1a)の側縁部近傍位置に、両側縁より外側方に延びる翼状取手片(11)(11)を貼着している。この場合も、両翼状取手片(11)(11)を裏側に回して把持する併せて把持することにより、袋本体(A1)の形を良好に保ちつつ袋全体を傾けて内容物である流動物を注出操作できる。この場合も、袋の注出用口部(4)は、幅方向中央位置に備えおくのがよい。

【0066】図14は第3の発明の実施形態を示している。

【0067】この発明では、上記同様の可撓性素材よりなり、上縁部に開封可能に形成された注出用口部(4)を有する包装袋(A)と、厚紙等の適度に腰のあるシート材により形成され、前記包装袋(A)を巻回できる環状テープ体(12)とを組合せている。この場合、前記テープ体(12)は、包装袋(A)を変形なく保持できるように、比較的広幅のものとする。

【0068】この場合、流動物が収容されている包装袋(A)の外側に、図のように輪索状テープ体(12)を巻回して、該テープ体(12)のはみ出し部分(12a)を把持することにより、包装袋(A)を大きく変形させることなく保持でき、このまま全体を傾けることで、内容物である流動物を注出できる。

【0069】図15は第4の発明の実施形態を示している。

【0070】この発明では、前記同様の包装袋(A)と、厚紙等の適度に腰のあるシート材により形成され、前記包装袋(A)を挿入して把持できる主として有底の筒状体(13)とを組合せている。この場合も、流動物が収容されている包装袋(A)を筒状体(13)に挿入して、その外側より把持するようにすれば、包装袋(A)を大きく変形させることなく保持でき、このまま全体を

1 1

傾けることにより流動物を注出できる。

【0071】

【発明の効果】上記したように本発明の流動物用包装袋によれば、かなり腰の弱い素材よりなるフレキシブルな袋であっても、片手で持って注出操作できる。しかも収容部分を握らないので、袋内圧が安定し、傾きに応じた注出量で注出でき、不意に多量に飛びだしたりするおそれがない。したがって例えば液体洗剤その他の各種流動物の詰め替え製品の移し替え操作を誰でも容易に失敗なく行なえる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1の発明の1実施形態の包装袋の正面図である。

【図2】図1のX-X線の断面図である。

【図3】図1のY-Y線の断面図である。

【図4】第1の発明の他の実施形態を示す正面図である。

【図5】第1の発明のさらに他の実施形態を示す正面図である。

【図6】さらに他の実施形態を示す正面図である。

【図7】注出操作時の袋の傾き状態の説明図である。

【図8】注出用口部に口部材を設ける場合の実施形態の一部の正面図である。

【図9】注出用口部に口部材を設ける他の実施形態の一部の正面図である。

【図10】注出用口部に口部材を設けるさらに他の実施形態の開封状態の一部の正面図である。

【図11】他の実施形態の正面図である。

1 2

【図12】第2の発明の1実施形態の正面図である。

【図13】第2の発明の他の実施形態の正面図である。

【図14】第3の発明の1実施形態の包装袋の正面図である。

【図15】第4の発明の1実施形態の包装袋の正面図である。

【符号の説明】

(A) 包装袋

(1a)(1b) 表裏体

10 (2) 底部

(3) 側縁の接合部

(4) 注出用口部

(5) 上縁部の接合部

(6) 開封用の切込み

(7) 把持用孔

(7a) 人差し指用の

(7b) 中指用の孔

(7c) 薬指用の孔

(7d) 3指用の孔

20 (7e) 4指もしくは3指用の孔

(8) 取手部

(9) 印刷表示

(10) ミシン目状の切込み

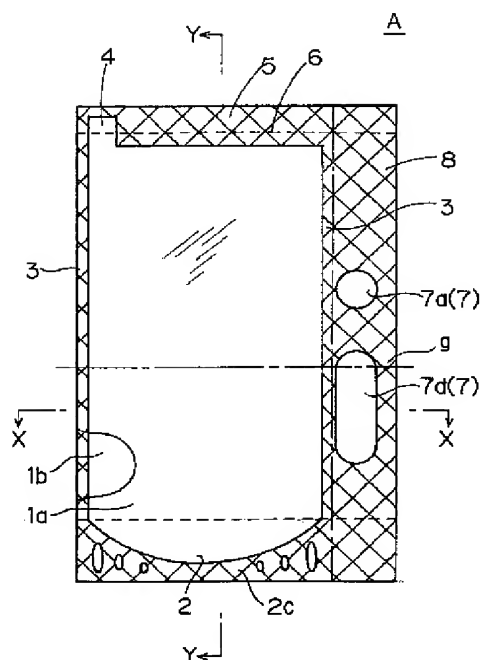
(11) 翼状取手片

(12) 環状テープ体

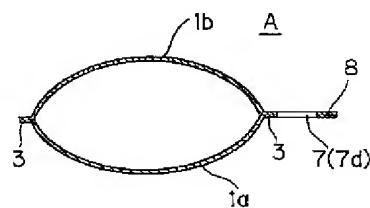
(13) 筒状体

(14) 口部材

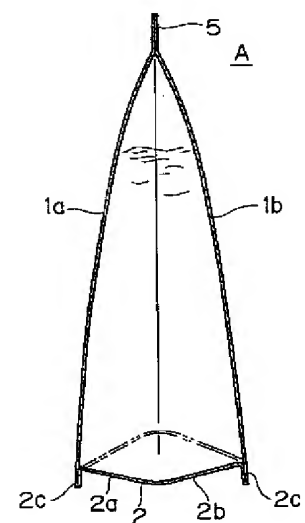
【図1】



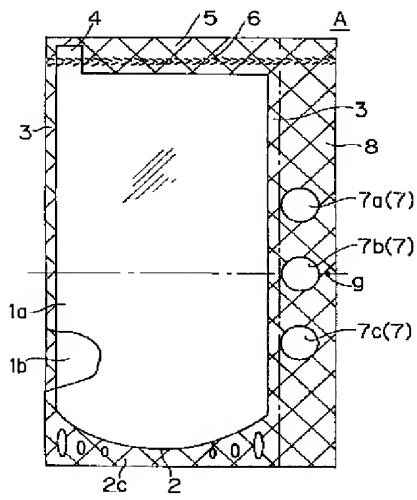
【図2】



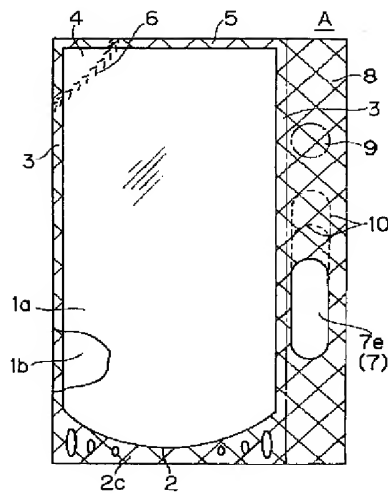
【図3】



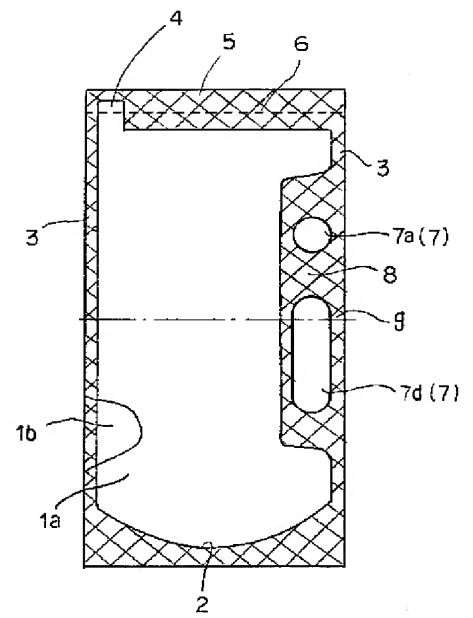
【図4】



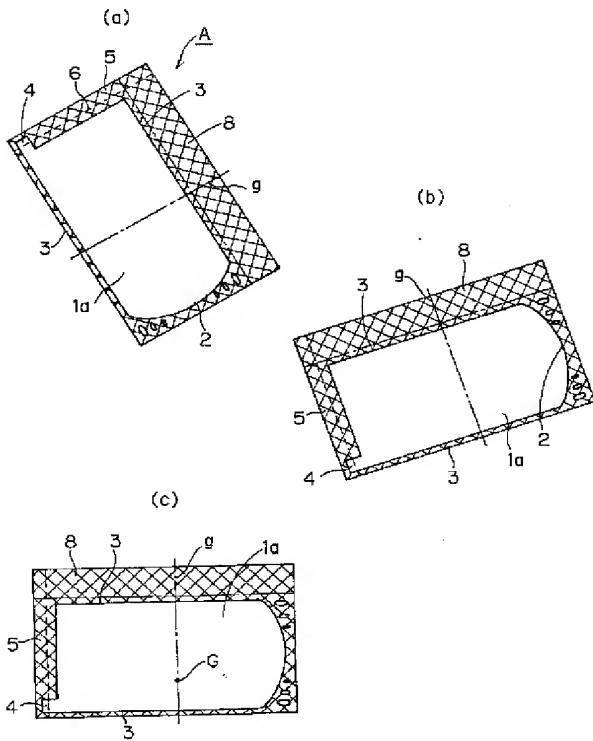
【図5】



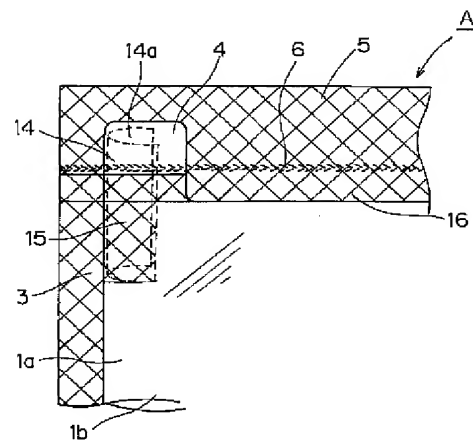
【図6】



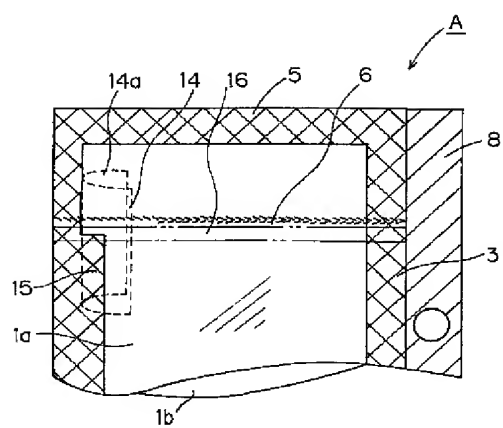
【図7】



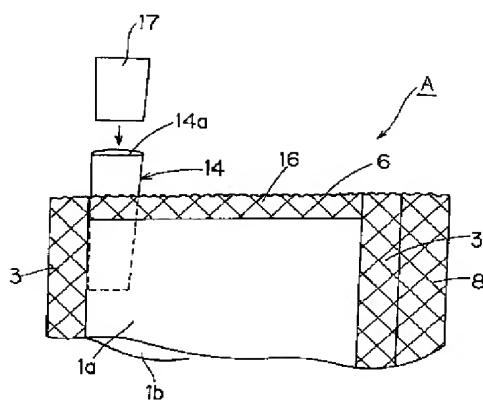
【図8】



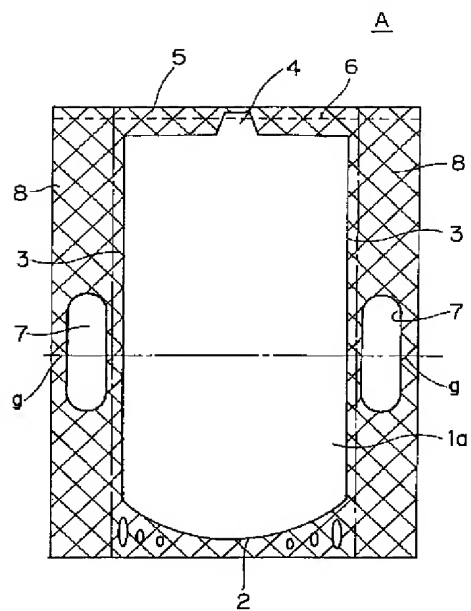
【図9】



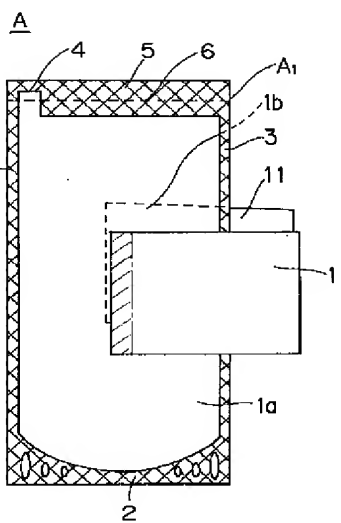
【図10】



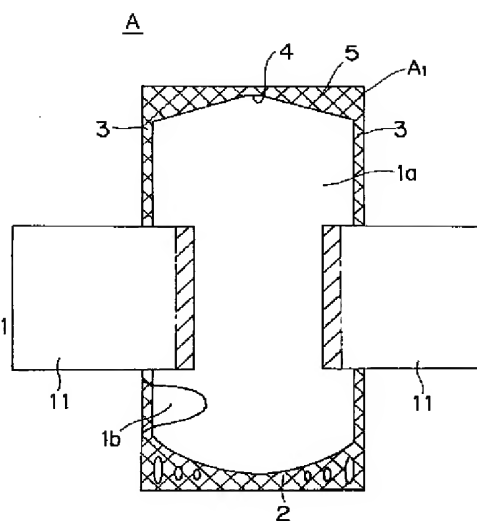
【図11】



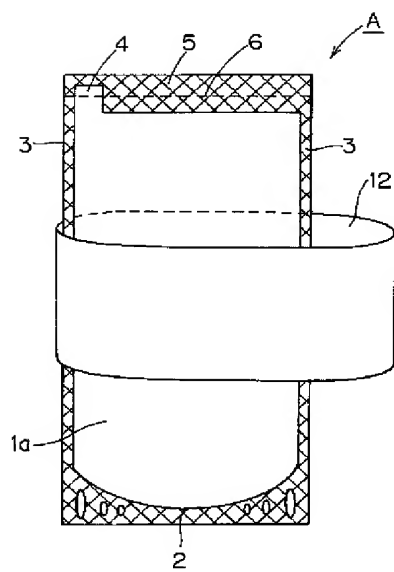
【図12】



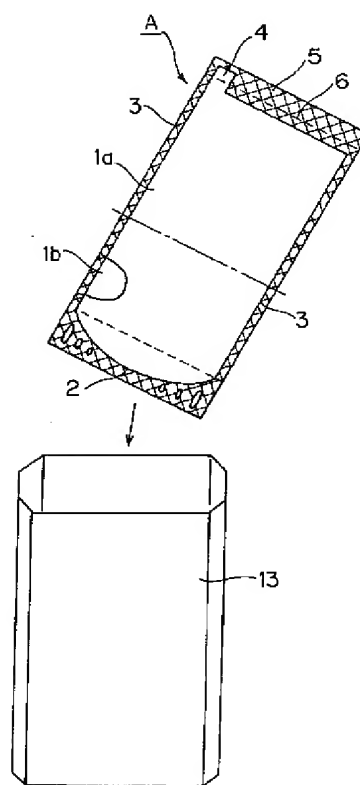
【図13】



【図14】



【図15】



**PAT-NO:** JP409183442A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 09183442 A  
**TITLE:** PACKING BAG FOR LIQUID FOOD  
**PUBN-DATE:** July 15, 1997

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
OKADA, HIROBUMI	

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
OKADA SHIGYO KK	N/A

**APPL-NO:** JP07343140  
**APPL-DATE:** December 28, 1995

**INT-CL (IPC):** B65D033/08 , B65D033/10

**ABSTRACT:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a bag for a liquid food which, even when the bag is of a material lacking stiffness and flexible, can be handled for pouring one-handed and which can be suitably used for refilling with various liquid foods.

SOLUTION: The front body 1a and the back body 1b of a packing bag A are joined along at least their one lateral edge and have an unsealable

pouring hole 4 at their upper edge. A handle part 8 having holding holes 7 adjoins the joining part 3 of one lateral edge. By taking a position (g) on the handle part as a fiducial point, which is on a vertical line passing the center of gravity when the bag containing a liquid food is held by the handle part turned upward and horizontally, the holding hole 7 is provided close to the fiducial point. As holding holes 7, one hole 7a for the forefinger is formed on the side of the upper part of the bag above the fiducial point (g) and another hole 7d for the three fingers from the middle to the little fingers on the side of the lower part of the bag including the fiducial point.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO